

東京

「其の日」暮らし



東京からドイツへ

突然ですが、4月からドイツに行くことになりました。旅行ではなく、旦那さんがドイツで仕事をする事になり、シュトゥットガルトの街の住民になるのです。「もしかしたらドイツに行くかも」と聞いたときは、「ドイツに住むのかぁー。なんか格好いいやん」と気楽に考えていました。(当の本人は大変なことだったのに・・・旦那さんごめんなさい。)

中国には住んだことがあるし、東南アジアでは何度も長期滞在をしたことがありましたが、ヨーロッパにはイギリスに一度行ったきり。英語はサバイバル英語のみ。ドイツ語に至っては、挨拶とお礼くらいしか分からないけど、まあ何とかなるだろうと高をくくっていました。そしてインターネットでドイツについて調べるうちに、色々考えたり、用意をしないといけないことが出てきて、どんどん大変になってきたのです。他のことがぜんぜん手につかない！東京にくる時には、「同じ日本だし、食べ物も同じ。全く問題ナシッ」と取り立てて準備もせずに来ましたが、そのときとは大違いの状態に気がついて、パニックを起こしつつバタバタと二週間位を過ごしました。

まず食べ物で不安がふくらみました。私は「お米が食べたいっ！」と思うことがあまり無かったので、ヨーロッパは米食文化圏では無いということをつっかり忘れていたのです。ところが旦那さんはお米が大好きなのです。1歳の息子もパンよりはお米。お米よりはうどんを好むので、どうやって入手するか？と考えましたが良い知恵が浮かばない。幸い義母がヨーロッパに長期で行くことが多く、色々教えてもらい一安心。落ち着いて調べてみるとシュトゥットガルトにも日本食料店や中華食料店があるし、何より日本の百貨店がミュンヘンに出店しているのです。我慢が出来なくなったら多少高価でもそこで入手出来ます。「ヨーロッパに日本の百貨店があるなんて・・・日本はホンマすごいなあ」と思わずつぶやいてしまいました。ドイツ人の食事も気になったので、図書館で子供向けの「ドイツのごはん」という本も借りてきました。その本によると、ドイツの人は朝と夜は簡単に、数種類のハムとパンとデザートで過ごし、お昼にシッカリと食事をするそうです。ドイツ語の料理の本を見ながら料理すれば、料理と一緒にドイツ語も覚えられるかも・・・等々と考えられるくらいには余裕も出てきました。

気分転換に窓から外を見ると、建設中の「東京スカイツリー」が



(右)シュトゥットガルトの老木(左)東京スカイツリー

見えます。建設が始まりどんどん高くなるタワーを見ながら、隅田川の花火が見えにくく
なってしまうので「せっかくの眺めが台無しや」と、文句を言っていたのに、もうすぐ見
れなくなると思うと名残惜しくなってしまうのでした。

PUKIPUKI・N

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞